

## 入門助成団体に対するフォローアップ調査について(平成27年度)

### ① 経緯と目的

地球環境基金助成区分の一つである入門助成は、昨年度までは「助成期間で得られた知識・経験を用いて、将来は一般助成の対象となること」を期待して実施しているものである。平成26年度の入門助成団体が今年度一般助成に採択された割合は約28%程度であり、昨年度の値(60%)と比べ採択率は減少したといえる。

そこで、平成26年度入門助成32団体のうち、平成27年度助成団体として採択された9団体(すべて一般助成9件)、応募したが不採択となった13団体を除く10団体を対象とし、そもそも応募のなかった団体にその理由をアンケート調査票でとりまとめ、未応募理由を把握した。

表1 調査団対数及び回収率

調査団体数	回収団体数	回収率
10件	10件	100%

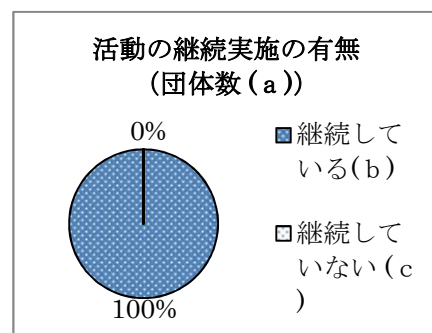
### ②活動の継続実施状況について

#### 1)活動の継続実施の有無

「助成活動は、継続して実施していますか」という質問等に対し、「その後も継続して実施している」と回答があった団体は10団体中10団体(100%)であった。(表2)

表2 活動の継続実施の有無

区 分	件 数
団体数(a)	10件
継続している(b)	10件
継続していない(c)	0件
継続率 (b/a)	100%



## 2)活動継続に関わる財源

活動を継続している 10 団体の活動財源は次のとおりであった。(表 3)

表 3 継続実施に当たっての支援・財源 (複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 10 件	
	件数	対象団体に対する率
① 国の助成金(地球環境基金以外)	1 件	10%
② 地球環境基金	0 件	0%
③ 民間財団等の助成金	0 件	0%
④ 支援金	1 件	10%
⑤ 会費	5 件	50%
⑥ 参加費	6 件	60%
⑦ その他	3 件	30%

⑥その他 と回答した 3 団体の理由は、以下の通りであった。

- ◆ 町の補助金 (1 件)
- ◆ 自己財源 (1 件)
- ◆ アサヒビール寄付金 (1 件)

活動継続に関わる財源について、最も多い回答は⑥参加費 (6 件、60%)」であった。

## ③地球環境基金の助成を要望しなかった理由

「平成 27 年度の地球環境基金の助成を要望しなかった理由について、該当する理由に○を付け、カッコ内にその具体的理由をご記入下さい。」という質問に対し、得られた回答は以下のとおりであった。(表 4)

表 4 地球環境基金の助成を要望しなかった理由 (複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 10 件	
	件数	対象団体に対する率
① 活動の目的を達成した。	1 件	10%
② 団体の活動を休止または団体を解散した。	0 件	0%
② 平成 26 年度と活動内容が重複するため申請できなかった。	3 件	30%
③ 助成の申請手続き・精算が複雑すぎる。	3 件	30%

④ 助成を受けるための資格要件が厳しい。	2件	20%
⑤ 助成制度に不満がある。(助成金の使途制限等)	1件	10%
⑥ その他	3件	30%
未回答	0件	0%

⑦その他 に挙げられた具体的理由は以下のものであった。

- ◆ 事務局体制の変更があり、本基金の会計・報告書等の作業を担うマンパワーの確保が難しくなった。(1件)
- ◆ 精算で要求される内容の一部は現地の実情に合わないため。(1件)
- ◆ 組織運営のコンパクト化(1件)

#### ④ 助成金で行った事業の、その後の成果・反響等について

「助成金で行った事業について、その後の成果・反響等」について、次のような回答があった。概要は以下のとおりである。

表5 地球環境基金の助成を受けた活動の波及効果(複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 10 件	
	件数	対象団体に対する率
①助成活動を参考にして、他の団体でも類似の活動を実施するようになった。	0件	0%
②助成活動を参考にして、類似の活動を行う団体が新たに設立された。	0件	0%
③他の団体から問い合わせまたは説明依頼があった。	3件	30%
④他団体等のネットワークが構築された。	3件	30%
⑤行政の政策に具体的な提言をし実現させた。	1件	10%
⑥法令や条例等の制定や改正に貢献した。	0件	0%
⑦地域の環境保護(保全)システムづくりに貢献した。	3件	30%
⑧環境保全や保護を目的とした施設づくりに貢献した。	1件	10%
⑨活動への参加者が増えた。もしくは、パンフレットの配布数が増えた。	3件	30%
⑩メディアに掲載された。	2件	20%
⑪表彰を受けた。	0件	0%
⑫その他	2件	20%
⑬特になし	3件	30%

⑪その他 に挙げられた具体的理由は以下のものであった

- ◆ 現地との協力関係は強化された(1件)

- ◆ 大分県から H26 年度アサヒビール寄付金授与団体に推薦され、授与された。

**⑤ 地球環境基金に対する要望について**

「地球環境基金に対する要望」について、次のような回答があった。

概要は以下の通りである。

表 6 地球環境基金に対する要望(複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 10 件	
	件数	対象団体に対する率
①事務作業を簡潔にして欲しい。(申請書類、報告書類)	3 件	30%
②事務作業を簡潔にして欲しい。(会計書類)	4 件	40%
③概算払いを認めて欲しい。	3 件	30%
④同様の活動をしている他団体を紹介して欲しい。	0 件	0%
⑤連携できそうな企業を紹介して欲しい。	3 件	30%
⑥有給の役職員の人件費も認めて欲しい。	2 件	20%
⑦会計をチェックする人を派遣して欲しい。	2 件	20%
⑧その他	0 件	0%
⑧特になし	3 件	30%



地球環境基金助成金 フォローアップ調査票 (平成26年度入門助成)

団体名:  該当者名:  ご連絡先(TEL):  基金記入欄

Part1 地球環境基金の助成を受けて行った活動について

Q1-1 地球環境基金の助成を受けて行った活動は、現在も継続して実施していますか？

1. はい  2. いいえ  Q1-2 (Q1-1で「はい」と答えた方へ) 主な理由を1つ選択してください。
- 1. 活動の目的を達成した。
  - 2. 活動の効果がなかったため、実施していない。
  - 3. 団体の活動を休止または団体を解散した。
  - 4. 運営体制に問題(人材の育成不足、組織内の考え方の不一致等)があり、実施できなかった。
  - 5. 資金不足のため実施できなかった。
  - 6. その他

Q2 助成終了後の現在の主な財源についてお答えください。(複数回答可)

- 1. 国の補助金 (地球環境基金以外)
- 2. 地球環境基金
- 3. 民間財団等の助成金
- 4. 支援金
- 5. 会費
- 6. 参加費
- 7. その他

Q3 平成27年度の地球環境基金の助成を要望しなかった理由についてお答えください。(複数回答可)

- 1. 活動の目的を達成した。
- 2. 団体の活動を休止または団体を解散した。
- 3. 平成26年度と活動内容が重複するため申請できなかった。
- 4. 助成の申請手続き・審査が複雑すぎる。
- 5. 助成を受けるための資格要件が厳しい。
- 6. 助成額に不満がある。(助成金の用途制限等)
- 7. その他

Q4 地球環境基金の助成を受けた活動の波及効果はありましたか？(複数回答可)

- 1. 助成活動を参考にして、他の団体でも類似の活動を実施するようになった。
- 2. 助成活動を参考にして、類似の活動を行う団体が新たに設立された。
- 3. 他の団体から問い合わせまたは説明依頼があった。
- 4. 他団体等のネットワークが構築された。
- 5. 行政の政策に具体的な提言をし実現させた。
- 6. 法令や条例等の制定や改正に貢献した。
- 7. 地域の環境保護(保全)システムづくりに貢献した。
- 8. 環境保全や保護を目的とした施設づくりに貢献した。
- 9. 活動への参加者が増えた。または、イベント等配布物の配布数が増えた。

Q5 具体的に、地球環境基金に対する要望等ございましたらお知らせください。(複数回答可)

- 1. 事務作業を簡潔にしてほしい(申請書類、報告書類)
- 2. 事務作業を簡潔にしてほしい(会計書類)
- 3. 税費払いを認めてほしい。
- 4. 同様の活動をしている他団体を紹介してほしい。
- 5. 連携できそうな企業を紹介してほしい。
- 6. 有給の役員員の人数も認めてほしい。
- 7. 会計を子エックする人を派遣してほしい。
- 8. その他
- 9. 特になし